

# 地方都市視察報告書

環境建設委員会

## 1 実施日

令和元年11月7日(木)

## 2 視察地 大分県

### 【市の概要】

- (1) 面積 6,340.74km<sup>2</sup>
- (2) 人口・世帯数(令和元年10月1日現在)
  - 人口 1,134,431人
  - 世帯数 495,605世帯



- (3) 大分県は、九州の北東部に位置し、北側は周防灘に、東側は伊予灘、豊後水道に面した県であり、明治4年(1871年)に廃藩置県により誕生し、明治9年(1876年)に下毛、宇佐郡を大分県に編入したことにより、今日の大分県域が確定した。

現在、18市町村(14市3町1村)からなり、人口が最も多い大分市や面積が最も広い佐伯市(九州一)などがある。

温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮で安全な食材、宇佐神宮や六郷満山、国宝臼杵石仏をはじめとした摩崖仏などの貴重な歴史的文化遺産など多くの地域資源がある。

また、由布院や別府をはじめとした県内全域に広がる温泉は、日本一の湧出量と温泉数を誇り、地球上にある10種類の泉質のうち8種類を有している。さらに、「The・おおいた」ブランドとして、関あじ・関さば、豊後牛などの高級食材を始め、かぼすやしいたけなど四季折々の食材も多くあり、特色豊かな県である。

## 3 視察項目・内容

- (1) スマートフォンを活用した道路舗装診断の取組について

## 4 視察参加者

### 【委員】

久保こうすけ委員長	渡辺清人委員	永原たかやす委員
志田雄一郎委員	のづケン委員	有馬としろう委員
宮坂俊文委員	雨宮武彦委員	かわの達男委員

### 【随行】

議会事務局議事係	濱野 智子	設楽 拓也
----------	-------	-------

## 5 視察結果・所感

一般県道（1, 545km）、主要地方道（990km）と、管理を任されている国道（695km）の合わせて3, 230kmを管理する大分県土木建築部道路保全課の方より事業の説明の後、質疑応答を行い実際使われている車両とスマートフォンを見学した。

従来、日常点検や、定期点検におけるひび割れ調査については、目視調査を行っていたが、平成29年度より株式会社富士通交通・道路データサービスが開発したアプリを搭載したスマートフォンをパトロール車両に設置し、走行中の振動のデータを3か月間蓄積することにより道路損傷状況の把握に活用している。従来行われてきた目視による点検を補完するデータとして中長期の道路保全計画を作成する際に利用されている。

委員からは「導入と年間にかかる経費」「蓄積したデータの活用方法」「大分市などとの連携の状況」などの質疑が行われた。

新宿区においては管理する道路が生活道路である区道であるため、大分県そのままの活用は検討事項であると思うが、スマートフォンなどでSNSを利用し道路の陥没や落石情報を本部と共有する体制づくりなどは、「災害発生時の情報収集」など我が区での応用が可能であると考えます。

## 6 主な質疑項目

- (1) スマートフォンを活用したシステムの利便性や成果について
- (2) システム活用による予算上の利点やコストについて
- (3) 通常の日視点検とシステムによる舗装診断との連携について
- (4) 一定期間蓄積した診断データの活用方法について
- (5) 多車線道路の対応について
- (6) 県管理の道路と市管理道路の診断のあり方について
- (7) 国や市との連携について
- (8) 広域的なスマートフォンによる診断システムの施策展開について

## 7 その他

### 【共同理事者】

みどり土木部道路課長 小野 浩一

